

THE END OF CAPITALISM AND HOW IT RUNS THE WORLD (資本主義の終焉と、資本主義がどのように世界を動かしているのか)

誰もがポストカーボンエコノミー（化石燃料の次の世代の燃料による経済）への変遷と共に、資本主義が終焉を迎えると言っています。答えは簡単です。地球に良い物は人にも良いのです。

世界がどう機能しているのか簡単に説明させて下さい。皆さんは物事の本当の意味での見定め方を理解するでしょう。この見定め方を知っていれば、自分自身で何でも解決することができます。その細部までも解決できます。皆さんは、まずすべきことを知って下さい。全ては繋がっています。

私自身も正しく理解するために、全て書いていきますね。一つずつです。

中央銀行：まずは世界の経済をコントロールしている中央銀行から始めなければなりません。中央銀行は負債を作り上げることで、経済をコントロールしています。（実際のところそれは世界規模のポンジー・スキーム（ネズミ講）のことです。）

中央銀行は民間の銀行です。アメリカの連邦準備銀行はその一つです。中央銀行はチューリッヒにある国際決済銀行（BIS）によって体系づけられています。

中央銀行は紙幣を刷ります。今日、この作業はボタンを押すだけでできます。何もないところから虚像のお金を作り出すのです。

このお金は他の銀行や、独占企業、政府に貸し付けられます。それが今では負債となっているのです。

中央銀行が欲しいのは利息なので、この貸し付けが返済されることなく負債となる方を好むわけです。この利息は現実とは全く不釣り合いな額となって膨らんでいます。

これは、中央銀行が、貸し付け用にいつもとてつもない額のお金を持っていることを意味します。緊急時以外は、その虚像のお金を刷る必要はありません。

また、中央銀行は全てを所有するようになるということも意味しています。なぜなら中央銀行が負債を所有しているからです。貧困な国が、利息を支払うために資産と資源を売りさばくという話を、一体どれだけ耳にしますか。その負債も借りるよう無理強いされたのではないですか。

独占企業：独占企業は中央銀行のために、このシステム上で働いています。独占企業が、地球を破壊して、そこで働く人達から搾取して（低賃金労働）、実際に仕事をするわけです。小さな商売なんて食べ物にしてしまいます。

資本主義：この経済のシステムを資本主義と言います。200年前に始まり、今や世界規模となった資本主義は、終わりを迎えようとしています。世界中の資源を無期限に使い続けていこうなんて無理な話なのです。資本主義は今や使い果たされた化石燃料を軸に機能しています。化石燃料なしに資本主義なんて有り得ないのです。資本主義は、石炭から始まり、石油とガスで終わろうとしています。

環境：目に見えて採取しやすい化石燃料は、因習的に使われてきて、使い果たされてきました。化石燃料は有限資源です。科学者は、この大地には80%はそれが残っていなければならないと言います。そうしないと、手に負えない気候の変化から、回避できなくなるからです。



私たちは罫にはまっています。急にこれらの燃料を使うのをやめることなんてできませんが、段階的に廃止していかなければなりません。できる限り早く。持続可能なエネルギーに変えていかなければ。

持続可能なエネルギー：持続可能なエネルギーは安くて無限です。それは新しい経済の礎となり、真の人間の価値に基づいた、自由経済となるでしょう。私たちが望む形の世界に発展させるのです。資本主義は戦争経済だということも忘れないで下さい。資本主義は、戦争から利益を得るのですよ。狙いは全てを所有することです。私たちには協力と共同社会の方が好ましいでしょう。資本主義は、むしろ競争と死を選んでいきます。

政府：政府は中央銀行と独占企業に仕えています。それらが三つ組となっているわけです。この三つ組みは資本主義に必死にしがみつき、例えばフラッキングのような、極端な行動に出ています。今、資本主義は終わりを迎えています。事実、ポンジー・スキームがよりはっきりと露になりました。政府はこのことを隠すため、緊縮経済を課し、あたかも私たちが負債をコントロールできるかのようなふりをして、中央銀行を手助けしています。負債はど

んどんたまって、返済されることはないのです。まだ産まれてもいない子供は、すでに巨額の借用書を手に入れていることとなります。負債は単純に、将来的に支払われると約束されたものです。緊縮経済は、私たちが負債をコントロールできるかのように見せかけたものでしかありません。一方、中央銀行は緊急時の紙幣を刷ることで手の内を見せています。このシステムが続くよう、市中銀行へ財政援助をしています。中央銀行は同様に虚像の紙幣を刷り増し、政府に緊縮経済を止めるよう言うかもしれません。だって何の違いも産みませんから。資本主義がこのまま続くならば、それは崩壊してしまうでしょう。ドルは無用となり、全ての貨幣も無用となるでしょう。

民主制：政府は国民のことなんて気にもかけていません。政府は三つ組みの中で、自身の権力だけに気を配っているのです。イギリスでは、主要な政党は全部この仕組みの中にいます。選択肢はありません。そんな政党に投票しても意味がありません。だから私は、イギリスには直接的な民主制のチャンスなんてないと言うのです。お年寄りには習慣に基づいて投票します。若者達、私たちは少数派の政党を作らなければなりません。緑の党（環境保護派）は健全で、理にかなった指針があります。私たちは主要とされている政党と戦わなければなりません。彼らが言うことは全て馬鹿げています。そして彼らがすることは全て危険です。

デモ：時間がありません。デモに参加して頭数となって下さい。数＝人々の力です。私たちには、私たちの立場に立てる政府が必要です。